



今年度のESDの重点目標（取組）

SDGsの輪を広げる～学校から地域へ、そして世界へ～

【令和5年度 ESD 実践報告】

01 学校全体で取り組むSDGsチャレンジ

萱田小学校では、夏休みと冬休みに「SDGsチャレンジ」という、SDGsについて考えたり、何かできることを探したりする取組を行ってきた。本年度は児童がより積極的に取組を行えるよう、SDGs賞を設け、自分にできることをは何かよく考え、取り組んできた児童を選出して賞状を作成した。環境について調べたり、ジェンダーについて知ったり、海辺のゴミ拾いをしたり、フードロスについて考えたりなどすばらしい取組が数多く見られた。SDGsチャレンジは今年で5年目となる。保護者にもコメントを書いてもらうことで、子どもがどんなことに興味をもっているかを共有し、家庭での意識も高めることができた。

02 地元企業との取組



昨年度から萱田小学校は八千代市に工場がある地元企業に資源回収をお願いし、回収した分の資源を買い取ってもらっている。ペットボトル、ペットボトルキャップ、アルミ缶の回収を学校全体に呼びかけ、いつもならゴミとなってしまう資源を少しでも減らそうと取り組んでいる。

今年度の取組として、前期は資源回収のやりとりを学校全体に知ってもらうことに注力した。放送をしたり、呼びかけをしたり、キャンペーンを行うなど広報活動に力を入れた。そして取組が周知されたところで、後期に資源回収強化週間を行い、多くの資源が集まった。昨年度と今年度合わせて約13000円が収益となっている。収益金は学校のためになる使い道を児童自身で考えていく予定だ。お金にすることだけが目的ではないが、資源を回収することが環境のためになり、そして学校のためにもなることが少しずつ広まり、その輪が地域へと広まってきている。



03 「服のチカラ」プロジェクト



6年生は、総合的な学習の時間に、ユニクロ・ジーユーの“使わなくなった服を困っている人たちに渡す”という活動を知り、6年生を中心として、学校全体で古着回収に取り組んだ。より多くの服を集めるために、ポスターを描いたり、呼びかけをしたりして自分たちにできることを考えた。集まった服を送った際、「どんな子が着るだろう」「世界の困っている子に届くことが不思議」などの感想があり、今までにない体験をすることができた。身近なものが世界の子供を救うSDGsの輪が世界につながるのだと実感できる機会となった。